

様式2

## 御提案書

技術分野：（1）及び（3）

御提案件名： 港湾入口にシルトフェンス（または鋼鉄製水門）を設ける件、及びタンクの代わりにプールを設けて汚染水を貯水する件

御提案者： 徳岡 滋（株）インスピレーション・ワールド代表取締役

技術等の概要（特徴、仕様、性能、保有者など）：

現在の原発の緊急課題は、安部首相がオリンピック招致や国会で公言しているように、汚染水を原発港湾の0.3平方キロ内に留めることです。それに対し国内外では、汚染水が港湾外に流出しているのではないかと懐疑的見方があります。即ち、港湾の入り口を通して、一日当たり港湾内の海水の半分が入れ替わっているという事実があります。

そこで放射性物質の除去などの前に、その懐疑的見方を払しょくし、国内外に安心感を与えるため、緊急措置として、港湾の入り口にもシルトフェンスを設置することを提案します。それにより海水の出入りを防ぐことができ、例え高濃度汚染水が港湾内に漏出しても、0.3平方キロ内でブロックできる、という安部首相の公約を守ることができます。

現在、内側に設置されているシルトフェンスと同様、作業船などが出入りするときだけ開閉し、技術的、予算的に難しい点はありません。その割に、実際、汚染水の外海への流出を防げるという効果及び国内外を安心させることができるという絶大な効果があります。

もし、シルトフェンスが外海の波圧に対して弱ければ、鋼鉄製の恒久的な水門を作ることを提案します。上記同様、船が出入りする時だけ開閉します。

また、技術提案（1）に関して、汚染水の貯水にタンクの代わりに、内部に隔壁を設けた大きなプールを作ることを提案します。タンクよりプールの方がはるかに容量を大きくできるからです。また、タンクはいずれ劣化します。しかし、プールは構造を丈夫なものにすれば劣化は遅く、隔壁を設けることで部分的補修も可能になります。コストも総計的にプールの方が安くできます。また、いずれ大量の原発の廃棄物が出ますが、最終処分前のその保管場所として、深さ5～10メートル（縦横100メートル？）のプールが2～3か所もあれば十分保管できると思われま

す。また、タンク周りの雨水なども、排出溝を通して直接、外海に出すのではなく、少なくとも一旦、港湾内に導くべきと思います。

以上、よろしくご勘案下さい。

2. 備考（以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします）

開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む）

現存する技術で十分対応可能と存じます。